

## 論文審査の要旨

報告番号	乙 第 2906 号	氏名	栗原 竜也
論文審査担当者	主査 岩井 信市 副査 加藤 裕久 副査 倉田 なおみ 副査 石野 敬子 副査 齋藤 勲		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究は、切除不能膀胱がん患者に対する化学療法の個別化をめざし、ゲムシタビン塩酸塩 (GEM) とテガフルル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤 (S-1) の個別の最適な投与方法の立案に寄与した研究である。</p> <p>まず、切除不能膀胱がんに対する化学療法で、生存期間の延長が得られる患者を治療前に識別するための予後指数を作成した。予後指数により患者を 3 群に識別し、化学療法により利益を受ける患者を感度よく予後を識別できることが明らかとなった。</p> <p>次に、GEM と S-1 の好中球減少の Grade が、良好な治療反応性に寄与することを明らかにした。GEM と S-1 において好中球減少を発症した患者では、全生存期間と無増悪生存期間の延長を認め、特に好中球減少の Grade 2 で効果が最大となることが明らかとなった。</p> <p>さらに、GEM と S-1 で好中球減少の Grade 2 を目指した用量調整を行うことを、QOL および薬剤経済学的な観点から評価し、推奨すべき治療であることを明らかにした。</p> <p>本研究は、切除不能膀胱がんに対する化学療法の個別化の必要性を明らかにし、新たな指標を示した臨床上の重要な知見であり、学術上の価値から学位論文に十分に値すると判断した。</p>			

(主査が記載、500 字以内)